

組踊上演300周年記念事業について

「組踊」とは

組踊とは、台詞、音楽、所作、舞踊によって構成される歌舞劇であり、首里王府が中国皇帝の使者である冊封使を歓待するために、踊奉行であった玉城朝薰（1684～1734年）によって創作され、1719年、尚敬王の冊封儀礼の際に初めて上演されました。

朝薰は生涯において、薩摩や江戸に公務で7回出かけています。そこで能や狂言、歌舞伎などの大和芸能を鑑賞し、琉球国内では中国戯曲を鑑賞するなどして造詣を深めました。そして、琉球古来の芸能や故事を基礎に、大和芸能や中国戯曲にヒントを得て組踊を創作したのです。朝薰は「執心鐘入」、「二童敵討」、「銘苅子」、「女物狂」、「孝行の巻」を創りました。これらの作品を〈朝薰の五番〉と称しています。組踊の担い手は、王府に勤務する士族とその子弟（すべて男性）でした。

「忠」〔国や王に尽くすこと〕、「孝」〔親に仕え、大切にする〕をテーマにした組踊は冊封使の好評を博しました。以後、冊封使歓待の宴席の儀礼は組踊を中心にして構成されるようになりました。また、組踊は1800年代にはすでに地方の村踊りでも上演されていたと思われます。

〈朝薰の五番〉をはじめ、その後の踊奉行らによって創作された組踊は、現在約70の作品が確認されています。その一方で、新作組踊も発表されています。

1972（昭和47）年、沖縄が日本へ復帰すると同時に、組踊は我が国の優れた芸能の一つであるとして、能、歌舞伎、文楽などと同じく国の重要無形文化財に指定されました。さらに、2010（平成22）年には、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載され、沖縄のみならず日本を代表する芸能として、今後の保存・振興・継承が求められています。

組踊上演300周年記念事業

本年2019年は、1719年に組踊が初めて創作・上演されてから300周年となる記念すべき年であることから、この節目に組踊の持つ魅力や意味を改めて捉え直すとともに、先人の功績を讃え、組踊を次の400年につないでいくべく、民間と行政が横断的に連携し、300年を記念する様々な事業を展開しております。

そして、記念事業を契機として、沖縄で暮らす人々が組踊をはじめとする沖縄文化に対する誇りを新たにし、より一層沖縄文化に親しみ、支える環境づくりにつながっていくことを目指します。



組踊「女物狂」

記念事業の方針

1. 誇り：「組踊」をはじめとする沖縄文化の持つ魅力や意味を捉え直す
2. 親しむ：「組踊」をはじめとする沖縄文化を県内外で親しむ機会を増やす
3. 支える：「組踊」をはじめとする沖縄文化が、将来にわたって継承・発展する環境づくりに資する

キャッチコピーとロゴマーク



組踊上演300周年記念事業実行委員会において、名嘉うららさん（11歳・小学生・沖縄県）の作品が選ばれました。

組踊を見た時のステージに圧倒され、この感動を広げたかったので「広げよう この感動を」とし、そしていつまでもこの組踊が続くよう「つなごう まだ見ぬ未来へ」としました、とのこと。

キャッチコピー製作者の体験をモチーフにイラストを作成し、「組踊上演300周年」とキャッチコピーとを合わせました。

300周年記念実行委員会の取組

実行委員会では、5月15日、沖縄の伝統芸能「組踊」上演300周年を記念して、組踊上演300周年記念事業の開幕式典と上演会を浦添市の国立劇場おきなわで行いました。



式典の様子

式典当日は、実行委員会会長の玉城デニー沖縄県知事、和泉流狂言師で人間国宝の野村萬同実行委員会名誉会長、伝統組踊保存会会長の眞境名正憲同実行委員会委員よりごあいさつをいただき、式典公演として「執心鐘入」の上演を行いました。



式典公演 組踊「執心鐘入」

今後の記念事業などについて

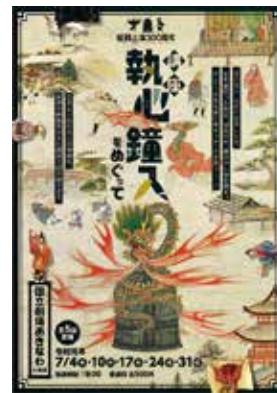
300周年記念実行委員会の主な事業

- ◆組踊上演 300周年記念展覧会
[THE KUMIODORI 300 ~組踊の歴史と拡がり~]
 - ・日 時：7月5日（金）～11月14日（木）
 - ・場 所：首里城公園（南殿特別展示室）ほか
- ◆組踊上演 300周年記念県内巡回公演
 - ・日 時：8月18日（日）マティダ市民劇場（宮古島市）
 - ・日 時：9月14日（土）名護市民会館大ホール
 - ・日 時：12月1日（日）石垣市民会館大ホール
- ◆組踊上演 300周年記念首里城公演・式典「琉球舞踊と組踊」
 - ・日 時：11月2日（土）、3日（日）
 - ・場 所：首里城御庭など

国立劇場おきなわの主な自主公演

- ◇講座 執心鐘入をめぐって
 - ・日 時：7月4日（木）～31日（水）全5回
- ◇親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」
 - ・日 時：7月27日（土）午後2時
- ◇御冠船踊と組踊「執心鐘入」
 - ・日 時：10月4日（金）午後6時30分
- ◇御冠船踊と組踊「銘苅子」
 - ・日 時：10月5日（土）午後6時30分

※詳細は国立劇場おきなわ HP にて
<https://www.nt-okinawa.or.jp/>



講座の案内

組踊上演300周年記念実行委員会特設サイト

<https://kumiodori300.okinawa>

沖縄総合事務局の取組



講演会の様子

○沖縄振興講演会

4月25日、歴史研究家であり、ツアー企画や観光ガイドに携わる傍ら、琉球王国の歴史・文化とエンターテイメントを融合させラジオ番組などで発信するなど斬新な活動を行っている賀数仁然氏をお招きし、「琉球と組踊」～劇聖玉城朝薰が生きた時代～と題した講演会を開催しました。

講演会では、琉球王国時代の歴史・文化や玉城朝薰の生い立ちから、組踊誕生の背景や組踊の魅力、朝薰最期の様子など、当時の日本史の時代背景と重ねて示唆に富んだお話を伺いました。



パネル展の様子

○パネル展の開催

300周年記念イベントとして、5月21日から30日までの間、那覇地方合同庁舎2号館1階 行政情報プラザ内にて組踊のパネル展を開催しました。

パネル展では、組踊のはじまり～玉城朝薰の世界～と題して、朝薰の組踊五番とされる「執心鐘入」、「二童敵討」、「銘苅子」、「女物狂」、「孝行の巻」の演目などについて、漫画やパネルで紹介したほか、舞台道具や地謡の公演写真などの展示を行いました。